【広島】「めまいセンター」開設、めまい相談医3人体制-工田昌也・堀病院めまいセンター長に聞く◆Vol.1

目標は病名診断率100%

m3.com地域版

堀病院（広島県福山市）は2023年4月にめまい・ふらつきを診断・治療する「めまいセンター」を開設した。日本めまい平衡医学会専門会員であり、同センターのセンター長を務める工田昌也氏に、センター開設の背景などについて聞いた。（2024年10月22日インタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回はこちら（近日公開）

感覚器診療と呼吸器診療を専門とする病院

――堀病院について教えてください。

堀病院は1976年に耳鼻咽喉科医院として開院しました。1981年に病床を39床に増床・移転し、耳鼻咽喉科病院となり、現在の診療科目は耳鼻咽喉科、頭頸部外科、眼科、内科、呼吸器内科、形成外科です。全国的に見ても珍しく、感覚器診療と呼吸器診療を専門とし、医師33人（うち非常勤26人）、看護師・准看護師42人で診察を行っています。

――「めまいセンター」について教えてください。

「めまいセンター」は、めまいやふらつきを専門的に診断・治療する目的で設置されました。診療時間は月曜と木曜の9～12時、15～18時と、奇数週の土曜の9～12時です。スタッフは私のほかに、高松真奈美医師と片桐佳明医師というめまい相談医がおり、高松が第3月曜を、片桐が水曜午後を担当しています。

工田昌也氏

――センター開設の背景を聞かせてください。

厚生労働省の国民生活基礎調査によると、めまいを訴える人の数は約240万人に及ぶといわれています。近年、いくつかの大学病院で同様のセンターが開設されているようですが、専門的に診断ができる病院はまだごく少数です。広島県でも、めまいやふらつきに特化した医療機関はありませんでした。めまいやふらつきに悩む人によれば、かか

りつけ医か、脳神経外科か、耳鼻咽喉科か、どの医療機関に行けばいいのかわからないと言われることがほとんどです。脳神経内科や耳鼻咽喉科でも原因がはっきりしないケースも多く、医療機関を転々としている人もたくさんいます。

長年の間、広島大学病院の耳鼻咽喉科でめまいやふらつきの診断・治療に携わっていましたが、定年退職後にどうするかを悩んでいました。そんな時に、縁あって当院の院長に声をかけていただき、2023年4月に入職、同時にセンターを開設しました。

堀病院（病院提供）

センター開設時の目標は病名診断率100%

――医療機関を転々としてしまうのはなぜですか。

医学的にめまいの症状は「回転性めまい」「浮動性めまい」「立ちくらみ」「平衡機能障害」に分類されるのですが、患者さんの訴えるめまいにはさまざまな症状が混在していることが、正しい診断をすることを難しくしています。

めまいの診療に専門的に携わっている医師であれば、症状の反復の有無、誘因、持続時間、聴覚症状の有無などの問診を詳細に行うことで、ある程度の診断ができるはずです。中枢の障害が疑われれば脳神経内科を紹介、めまいの原因の多くを占める耳が原因のめまいであれば耳鼻科の受診、精神的なものは精神科や心療内科、血圧異常や不整脈などが原因の場合は循環器内科などというように、患者さんのめまいを治療するための最適な道筋を示すことが必要です。

ところが、多くの場合、知識が足りなかったり設備が整っていなかったりするため、診断に必要な検査ができず、原因や具体的な病名が明らかになることがないまま「慢性的なめまい症」であると診断されるケースが多くありました。

そこで、当院ではセンターを開設する際に、少しでも多くのめまい患者さんを救いたいとの思いから「病名診断率100%」を目標に掲げました。開設して1年半ですが、患者さんにしっかりとした検査が行える環境が整っており、目標は達成できています。

◆工田 昌也（たくみだ・まさや）氏

1982年広島大学医学部卒業、1985年広島大学大学院卒業、1988年カロリンスカ研究所大学院卒業。1989年よりBarany Society学会会員、1995年より日本平衡医学会専門会員。広島大学講師、診療准教授を経て、2023年4月より現職。

【取材・文・撮影＝小川茜】（一部写真は病院提供）

記事検索

ニュース・医療維新を検索